

南ユークリー使い

平成25年春
さくらホームクリニック
第8号

ヒポクラテスの樹

鳥インフルエンザ

私たちのクリニックが所属する印旛市郡医師会から毎週FAXで「感染症発生動向調査情報」と呼ばれるレポートが届けられます。

これは印旛保健所管内にある感染症定点把握対象の調査結果に基づくもので、それを見ると今、日本ではどの感染症が流行っているか、注意が必要か、一目瞭然です。クリニックの休日・夜間診療当番で一番患者数が多いのはどの感染症なのか、前もって予測出来ますから、インフルエンザウイルス判定検査キットなどの在庫チェックを行います。感染症には季節的特異性を持つもの

が多く、たとえば年末頃にはノロウイルスなどの感染性胃腸炎が流行り、新年からはインフルエンザウイルスが広がりピークを迎えます。この二種類のウイルス感染症が高齢者にとっては命取りになってしまうことが多いので注意が必要です。最近になりこれらの感染症の症例数が激減し、今年の感染症シーズンがやつと終息してきたかなと安心していただけ矢先に、今度はNHKなどのニュースで連日、中国で鶏、鳩、ウズラなどから鳥インフルエンザウイルスのヒトへの感染が相次いでいると報道されています。4月8日の時点ですでに21人の感染とそ

のうち6人の死亡が確認され、さらなる拡大の様相と住民の不安感の高まりを何度も伝えていきます。特に、中国最大の経済都市、上海では町中の市場で食用として売られている鳥から次々とウイルスが検出されており、感染源ではないかと考えられているようです。世界保健機関（WHO）は、ウイルスがヒトに感染しやすい形に変異したと考えられることから感染拡大を警告しています。

鳥インフルエンザウイルスは、野生のアヒルや鴨などを自然宿主として普通に存在しています。それらの鳥の腸管の中で増殖し、糞を媒介として鳥から鳥へと感染していきま

す。ただ、これらの鳥ではたとえウイルスに感染しても発症しないと言われていました。こうした鳥インフルエンザウイルスはウイルスの特徴を示す抗原型によって、(H1・H16) X(N1・N9)といった16種類のHタイプと9種類のNタイプの組み合わせで多くの組み合わせがあります。そうしたウイルスの中に、ヒトが飼育している鶏や七面鳥にひとたび感染すると非常に高



CNN. co. jp

い病原性を引き起こすタイプのものがあり、これは特に高病原性鳥インフルエンザと呼ばれており、養鶏産業に従事する人々にとって大きな脅威となっています。これまで頻繁に報告されてきたのは、H5N1タイプのもので、病気になる鳥と接触したヒトへの感染、発病が報告されています。この種類のウイルスは致死率が高いことが指摘されてお

り、H5N1ではヒトに感染すると致死率は50%とも言われています。そのため将来生物テロに悪用されるといふ懸念する声があります。リカなどがら上がり、しばらくこ

のウイルスを用いた研究が強制的に中止されています。ウイルスは豚などの家畜を介してどんどん変異していくことが知られており、また、豚などは鳥インフルエンザとヒトインフルエンザの両方のウイルスに感染するので、体内でウイルスが混じり合いヒトに感染する力を持った鳥インフルエンザウイルスが出現する可能性があります。このウイルスが何らかのきっかけで突然変異を起こしヒトからヒトへと感染する能力を持った新しいウイルス(新型インフルエンザ)が出現すると、それが瞬く間に爆発的な感染を引き起こすのではないかと心配されています。

今回、中国で次々とヒトでの感染が報告されているのは、H7N9タイプのもので、(2枚目に続く)

H7N9は本来弱毒性のウイルスとして知られていましたが、中国で確認された症例ではいずれも症状が重篤で、強毒性と言われています。中国当局と連携して対策を講じている、アメリカの疾病対策センター(CDC)の発表では、死亡患者の一人は食用鳥を運ぶ仕事をしていたそうです。が、どこでこのウイルスがヒトに感染したのかはまだ確定はしていません。同時に、ウイルスに感染したかどうかを早期に診断する方法の確立と、このウイルスがさらに広がることに備えてワクチンの開発に取り掛かっているそうです。日本でも、このウイルスがヒトからヒトに感染する事態に備えるため、中国からウイルスを入手しワクチン開発を開始するそうです。

成田空港や羽田空港で中国へ出張で向かう会社員たちが不安そうな表情でテレビのインタビューに答えています。仕事とはいえない時期に中国へ出かける必要があるという事は本当にご苦労様です。それでは鳥インフルエンザに感染しないために注意することは何でしょうか。国内ではまだ鳥インフルエンザを発症したヒトはいないのですが、野生の鳥からの感染防止として、衰弱したり死亡した野鳥やその排泄物は直接触れないようにして、もし触れたら直ぐに手洗いやうがいをするのが大切です。中国などの鳥インフルエンザウイルスが流行している地域に旅行で行かれる場合は、生きた鳥を販売したり食用に鳥を解体している場所には近寄らない、十分に加熱された鶏肉、卵を食べるのが大切です。

す。もし不幸にして感染してしまうと、ヒトインフルエンザと同じような症状、発熱、呼吸器症状、下痢、そして悪化すると多臓器不全で死亡してしまう恐れがあります。WHO

人生の最終章

仏教用語に、生老病死(しょうろうびじょうし)という言葉があります。これは、四苦とも呼ばれます。即ち、生、老、病、死の四つで四苦です。ここで言う「苦」とは、文字通りの「苦しみ」という意味ではなく、「自分の思い通りにならない」ということだそうです。確かに、この四つは、個人の意思ではままなりません。そして、考えてみれば、私たちのしている高齢者の在宅診療は、その人の生、老、病、死すべてに関わる仕事です。いわば人生の最終章を



ハナカイドウ

からの報告では、期待される治療薬として、ヒトインフルエンザの治療薬、タミフルやリレンザが少しは効果があるようです。

近藤 精二

という状態を、日常的に目の当たりにします。その都度、ご家族や施設のスタッフと相談して、薬や食事の形態を調整したり、病院を受診して精査や治療を受けることを勧めたり、またいくつかチヨイスがある場合にはそれらについて説明し、希望を確認したりします。

最近では、胃ろうや人工呼吸器などの積極的な延命治療を選ばない選択も多くなってきました。また、病院受診や点滴なども望まず、自然経過で看取りを希望されることもしばしばあります。ばあります。世間一般でも、この数年、「終活」や「エンディングノート」などという言

葉が流行ったり、テレビでも人生の終末期をテーマに取り上げる番組をよく見かけます。ただ、比較的若い人たちが遠い将来として漠然と考えるのと、実際に身の回りで関わりがある人が終末期を迎えるのでは、大きな違いがあります。私たちも、家族や介護をする人ほどには密接ではありませんが、日々終末医療にじかに携わり、場合によっては最期まで見守っています。診察時に直接言葉を交わす時間は少しずつですが、特に長年主治医として見守ってきた方々に関しては、その方の人となりや会話などを感慨深く想い出されることもよくあり、スタッフと懐かしんだりしています。そのうち改めて想い出会う機会を持ちたいと思っています。

近藤 靖子